

近隣の自然の変化に触れる No. 3 / 本橋野草苑

「春が来た(1) Spring has come(1) @Motohashi garden」

2022年3月13日

このシリーズでは、過去に本橋野草苑で撮影した野草をアルバムとして紹介する予定で始めましたが、今回は今年野草苑で出会った野草だけです。春の到来を告げる草木が庭一杯に満ちていたからです。

なんと言っても、先ず目が釘付けにされたのは可憐なキクザキイチゲ（菊咲一華）です。青紫色と白色の花が群生し、庭の一角を飾っている様はその名の通り“一華”です。早く見たいと7時頃訪れるとまだ花弁は閉じていて、太陽の光を受けて放射状に開きます。

福寿草は、2月半ばに咲く種類(No.1 参照)につづき、3月になると新たな種類の花が開く。秩父紅（別名、朔日草/ついたちそう）の赤銅色の福寿草は一万株の群落として秩父山系に咲くそうです。

和紙の原料となる黄橙色のミツマタも春先に咲きます。枝の付け根がその名の通り三つ叉になっています。

レンテンローズ(Lenten rose)は、クリスマスローズと同種で、姿形からの区別は困難。愛好家が、交配によって多様な色と形の種類をつくり交歓・品評会を開いています。ところで、レントとは？ キリスト教会暦の受難節(四旬節)＝イエスキリストが2000年前に苦痛と屈辱に満ちた十字架刑を受けて死んだが、3日目に復活し救い主である事を証した事を忘れないようにと、クリスチャンがイースター＝復活祭までの40日間（節）＜今年は3/3から4/20まで＞祈りながら備える期間を意味します。レンテンローズは、祈る人の傍らで見守る花となったようです。

最後は、言わずと知れた河津桜。3月に入ると伊豆の河津をはじめ各地で薄ピンク色の桜花が目に入り、ソメイヨシノ桜に先立って春の到来を告げます。